

第5回鉄道労連中央委員会(2/21-22)

ますます自民党と癒着

鉄道労連は二月二一

二日、第五回中央委員会を開催した。この中央委員会は鉄道労連と自民党のより一層の癒着が明らかとなるとともに、鉄道労連の分裂の危機を鮮明にしたものとなった。

全国鉄労働者の敵、鉄道労連をさらに追い詰め、解体しよう!

この中央委員会には自民党総務局長である鹿野道彦が来賓としてあいさつを行った。

実態はどうあれ、「労組」を名乗る「組織」の中央委員会にまで、自民党を代表するようなやつが参加することのなかに、自民党と鉄道労連改革マルの一体化がよりよく示されているではないか。「全民労連」が労組団体としての姿をかなぐり棄て、自民党と支持協力関係を結ぼうとしているとき、鉄道労連改革マルはその一歩先を進んで、深々と自民党との合体に突き進んでいる。ここに労使協調(協力・一体化)路線の行き着く姿があるのだ。

白民党議員が

一方でこの中央委員会は、旧鉄労グループと改革マルとの対立の一層の激化する場となった。

前委員会よりの懸案事項であった「鉄労友愛会議」「さつき会(動労)」のそれぞれ合計二億四千万円の自民党献金の拠出問題は、旧鉄労グループとの対立のなかでついに破産したのだ。同時に決定したはずの「自民党への献金」組合員一人千円の臨時徴収もまたともに

すでに「日刊労働千葉」でも明らかにしてきたとおり、松崎は「共済年金」問題を「解決する」と称して、「受給カット」「掛金アップ」の政府・自民党案を積極的に受け入れ、推進している。だが松崎・鉄道労連がいくら声高に「年金問題」を叫んでも破綻することのまがいがない「共済年金」を解決することなど

不可能であり、松崎・鉄道労連労連こそ、「年金危機」を生み出したのだ。

危機に瀕する共済年金
鉄道労連は、自民党案を積極推進

何故、共済年金が破綻したのか?それは、分割・民営化二〇万人首切り

に根本原因があるのははっきりしている。分割・民営化の推進者である鉄道労連は同時に共済年金破壊者なのだ。だから松崎は、自己保身のためにのみ自民党にとりいり、自民党に政治敵

金までして、「自助努力」の自民党案を積極的に推進することが「解決」と称しているのである。

分割・民営化を強行すれば、すでに破綻状況にあった「共済年金」が、壊滅することははじめから解っていたのだ。それを承知で、分割・民営化を政府・自民党・国鉄当局・鉄道労連はおし進めたのではない

か。年金問題の責任はこれら分割・民営化を推進した連中にあるのである。政府が責任をとることは当然である。

鉄道労連の自民党との一体化と分裂の危機は第五回中央委員会ではっきりとした。いまこそ鉄道労連解体闘争を強化しよう!

集まらない現状を、改革マルは危機感もあらわに、「年金問題をはじめ全体の取り組むという精神を」と必死になって「組織の団結」をがなりたてた。ではならない現状なのだ。

鉄道労連改革マルの目論みが余りにも自民党と一体化することに危機感をもった鉄道労連組合員の反対によってことごとく失敗をしているのだ。

だが松崎は、旧鉄労グループのページを進めながら、自民党との一体化に突き進まざるを得ない。それしか改革マルの生き延びる道がないのだ。

われわれは怒りをこめてすべての国鉄労働者の敵! 鉄道労連を解体するために総決起しなくてはならない。

「リクルート・消費税」の自民党に何で労働者が協力しなくてはならないのか。しかも、鉄道共済年金を破綻に追込んだものこそ分割・民営化を推進した奴らである。

3.26 三里塚

第二〇〇回定期委員会 を成功させよう!

三月二十八日一三時ヨリ
千葉県教育会館

これでいいの

当子校校教育

十五日、文部省は入学・卒業式での「日の丸」「君が代」の義務付け(反対した教師に対しては処分)などをもちこんだ「新指導要領」を告示した。また、天皇制を美化し、およそ非化学的な「神話教育」に「古事記」などから適切なものをとりあげる」とし、先に発表された「改訂案」をさらに改悪した内容となっている。まさに、「戦争国家化」に直結する代物である。